



竹下浅間山古墳 ■■■ C・4

この古墳は、墳丘が失われていますが、7世紀に築かれた前方後円墳で、河原石で美しく積まれた石室（埋葬施設）を持っています。

昭和48年に農地造成中に偶然発見され、発掘調査が行われました。その結果、頭椎太刀・鉾・馬具類などが出土しました。

(昭和52年3月8日 市指定)



ヒイラギ ■■■ D・3

ヒイラギは、日本では関東以西の山地に自生し、庭木としても植栽される常緑小高木です。通常は樹高3メートル程度ですが、この竹下町のヒイラギは約7メートルあり、稀に見る巨木です。

ヒイラギの葉の縁には、普通は刺がありますが、この木は老木であるため刺がなくなっています。(昭和38年3月5日 市指定)



オオバボダイジュ ■■■ D・3

オオバボダイジュは、北関東以北に分布する落葉高木で、山地に自生するのが一般的であるため、平地でこのような大木であるのは珍しいものです。

樹高は約25メートルあり、以前は2本並んで立っていましたが、そのうち1本は強風のため折損してしまいました。残った1本は樹勢良好です。

(平成元年3月22日 市指定)



上籠谷のフジ ■■■ E・4

フジは何種類かありますが、上籠谷のフジはノダフジと呼ばれる品種です。ノダフジは、本州・九州・四国の山野に自生するとともに、観賞用としても栽培される落葉つる植物です。

上籠谷のフジは、約12メートル四方の藤棚で栽培されており、例年5月頃には、1.5メートル以上の花房を伸ばして数多くの花を咲かせます。(平成5年11月29日 市指定)

※個人の宅地内にあるため、許可を得て見学してください。



吉良八郎の碑 ■■■ E・3

吉良八郎(1813~72)は、二宮尊徳(1787~1856)の門人で、各地で農村復興を手がけ、桑島村(現・宇都宮市桑島町)でも開田や災害復旧の指導をしました。

この碑は、その功績を顕彰するため、明治12年(1879年)八郎の七回忌に建てられたものです。(昭和42年3月25日 市指定)



木造薬師如来坐像【医王寺】 ■■■ D・3

薬師如来は、人間の病苦をいやし内面の苦悩を除くといわれている仏で、薬師瑠璃光如来とも医王仏とも呼ばれています。

この仏像は、南北朝時代から室町時代にかけて制作されたものと考えられます。寄木造りの技法が用いられており、漆箔が落ちているものの、体軀や面貌はよく保存されています。(昭和42年3月25日 市指定)

飛山城跡 ■■■ C・3



鬼怒川から見上げる飛山城跡



堀と土塁

飛山城の南側と東側は二重の堀によって、西側と北側は鬼怒川に面する断崖によって守られています。城の内部はさらに堀や土塁によっていくつかの曲輪に分けられています。



大手の木橋(復元)

飛山城跡は、鬼怒川を見下ろす台地の上にあります。

鎌倉時代後半に芳賀高俊により築城されたと伝えられ、芳賀氏の重要な拠点として中世を通じて機能していました。

南北朝時代には北朝方に属したため、南朝方の春日顕国の攻撃を受け、落城しました。

また、戦国時代には、宇都宮広綱を擁する芳賀・佐竹の連合軍5千人が在陣し、壬生氏に占拠されていた宇都宮城を奪還する前線基地になったこともあります。

豊臣秀吉の破却令により廃城となったと考えられます。



武将の詰所(復元)

平成4~9年度にかけて発掘調査が行われ、掘立柱建物跡・竪穴建物跡・木橋跡などの遺構と、武器・武具・古銭・中国産や国産の陶磁器などが出土しました。

現在、城内には、堀・土塁・木橋・掘立柱建物・竪穴建物が復元され、飛山城の在りし日の姿を偲ぶことができるようになっています。また、鬼怒川に面した崖の上からの眺めはすばらしく、晴れた日には宇都宮市街地や日光連山が一望できます。(昭和52年3月8日 国指定)

東山道と烽

